

岡・銚子塚古墳 とその周辺

八代町西部
境川町東部

甲斐国千年の都 笛吹市

文化財を
訪ねよう

考古学の知識

古墳

■ 古墳時代 ■

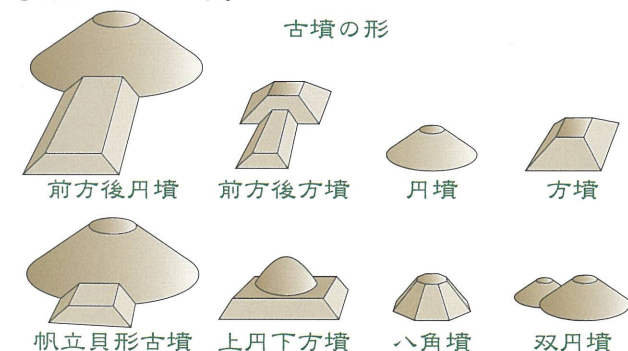
亡くなった人を地中に埋葬する風習は数万年前からあったようです。土を盛り上げる墓は様々な時代、多くの場所に見られますが、「古墳」は支配者や豪族などの墓を指し、3世紀中ごろから7世紀末までの「古墳時代」に造られました。

全国を見ると、古墳造営の始まりと終わりの時期は場所により異なります。物事が伝わる速さが現代とは違いますし、時代を決める要素や着目点の違いで、差が出ることもあります。

■ 古墳の形 ■

最古期の古墳は鍵穴の形をした前方後円墳で、3世紀中頃に造られた箸墓古墳（全長280m、奈良県桜井市）が採用している形です。超巨大な大仙陵古墳（全長485m、仁徳天皇陵として有名）、菅田御廟山古墳（全長415m、応神天皇陵とされている）は5世紀代に造られました。

6世紀になると小さな円墳が多くまとまった群集墳が造られるようになりますが、遺体を収める部屋も横穴式石室と言ひ、遺体を追加して埋葬できるようになりました。裕福な農民も古墳を造るようになったと考えられています。



■ 笛吹市内の古墳 ■

市内の古墳で最大・最古のものは八代町岡にある「岡・銚子塚古墳」で、周溝まで入れると全長は105mにもなります。5世紀には大きな円墳が造られますが、方墳である竜塚古墳も造られました。竜塚古墳は一辺が約56mある方墳で、この形の古墳としては非常に規模の大きいものです。

横穴式石室の普及する6世紀の後半には姥塚古墳が造られました。東日本最大規模の姥塚古墳の石室は全長17.5m、高さが3.6mもあります。

金川の森公園には八角墳の経塚古墳があります。この形は中国の古代思想に影響を受けた特殊なものという説が出されています。年代は、出土した鉄斧により7世紀前半と考えられています。

山梨県指定史跡 岡・銚子塚古墳



山梨県指定 竜塚古墳



— 笛吹市教育委員会 —

山梨県笛吹市教育委員会文化財課

〒406-0031 笛吹市石和町市部 809-1 TEL:055-261-3342 (直)

一の沢遺跡出土土器(重要文化財)



神社の知識

社格について 明治4年(1871)、政府は全国の神社を官社と諸社とに別けた。官社は大・中・小の官幣社と国幣社および別格官幣社、諸社は府県社・郷社・村社・無格社に区分された。この制度は昭和21年(1946)にGHQの指令により廃止された。

式内社(シキナイシャ) 平安時代に朝廷が重視した神社で「延喜式神名帳」(エンギシキシンメイチャウ)に名が記載されている神社。記載のない神社を式外社(シキゲシャ)という。神祇官(ジンギカン)、国司が直接奉幣する神社をそれぞれ官幣大社、国幣大社といった。

一宮(イチノミヤ) 平安時代、国司が任国赴任の際、最初に拝礼(国司神拝)した神社。二宮、三宮などもある。

総社(惣社)(ソウジャ) 国司が赴任した国すべての神社に神拝する手間を省くため、国府の近くに合祀した神社を造り、総社と称した。

寺院の知識

寺格について 諸寺院は朝廷や幕府により区分された。「延喜式」で官寺は大寺、国分寺、定額寺(ジョウガクジ)、有封寺(ユウフジ)、諸寺に区分されている。鎌倉幕府が臨済宗寺院の「五山」を選定し、室町幕府が臨済宗寺院を「五山、十刹、諸山、林下」に区分したことから、各宗派でも序列や格を定めるようになった。

官寺(カンジ) 国家が経済的保障をし監督する寺のことで、国家や天皇・皇室の安泰を祈願するための寺である。大寺、官大寺ともいう。国分寺・国分尼寺を含める場合がある。

私寺(シジ) 貴族や豪族らが私的に建てた氏寺で、大宝律令(タイホウリツリョウ)の僧尼令(ソウニリョウ)により表向き制約されたが、政府は僧侶による寺院建立を黙認した。多くの寺院が行基(ギョウキ)や良弁(ロウベン)らによって建てられている。中世以降は貴族の家に付属する菩提寺を指すようになった。

定額寺(ジョウガクジ) 奈良・平安時代、国分寺・国分尼寺に次ぐ寺格をもつ寺院であるとされる。「定額」の意味は不明。定額寺の多くは皇族や貴族が建てたものが多く、国の便宜を受けることができた。

檀家制度(ダンカセイド) 寺請制度(テラウケセイド)、寺檀制度(ジダンセイド)ともいう。江戸初期に定められた制度で、民衆は特定の寺院を菩提寺とし、寺から檀信徒である証明を請ける義務が課された。戸籍同様の宗門人別帳(シュウモンニンベツチャウ)が作成され、移動の際には寺の発行する証文が必要だった。寺にとって本来の宗教活動ができず、布教・改宗や寺院建立が禁止されて、仏教の停滞を招いた。

本末制度(ホンマツセイド) 江戸幕府の定めた制度で、各宗派の寺院を階層的に序列し、幕府は本山を通じて末寺まで効率的に統制することができた。結果的には自由な各宗派による宗教活動ができなくなり、本山への権限集中という弊害を招いた。

1 善国寺

ゼンコクジ

『東八代郡誌』では天文11年(1542)円林房律師が聖応寺末の臨済宗本光寺として開創した。13世円乗坊律師が身延山22世日遠上人に帰依して名を日円に改め、日蓮宗の善国寺として開いた、という。しかし『甲斐国社記寺記』によれば、12代円林房が日遠に帰依して善国寺としたと記している。仏像は江戸時代の作が多く、聖観音、不動尊などがある。



5 中尾神社

ナカオジンジャ

『甲斐国志』に昔は大社だったと書かれているが、今は小さな石造の祠のみで、詳細は不明である。



9 晴雲寺

セイウンジ

山号は妙見山。日蓮宗の身延山久遠寺末。本尊は十界曼荼羅。開山は吉川日鑑、開基は八代町米倉の本光寺住職であった鈴木日迅。『東八代郡誌』に、当地に日蓮が訪れた旧跡として妙見堂があり、参拝者が多く、明治15年に開山したとある。



2 竜安寺

リュウアンジ

山号は金富山。竜華院末。曹洞宗。治安元年(1021)、真言宗弘恵上人により開かれ、永治山真福寺と言い、本尊は聖観音菩薩(ショウカンノンボサツ)であった。最初は東南の山中にあったが、中尾八郎昌福により現在の地に移されたという。そのときの本尊は土中から掘り出された釈迦牟尼仏であった。開山は宗玖和尚(ソウキュウワジョウ)で、天文8年(1538)入寂。永禄8年(1565)に早川肥後入道により、本堂・庫裏・開山堂・鐘楼などが改修された。



6 諏訪神社

スワジンジャ

祭神は武御名方命(タケミナカタノミコト)と菅田別命(オムタワケノミコト)。後者は大治4年(1129)に勧請された。本殿は流造松皮葺(トタンで被覆)。武田氏の崇敬を得て社領の寄付を受けている。



10 仁応堂

ニオウドウ

晴雲寺の開山(明治15年)後に造られた。昭和の後半、仁王像が盗難にあい、現在の像は20年前頃の作。



3 岡・八幡神社

オカ・ハチマンジンジャ

祭神は応神天皇(=菅田別命)。石造庚申神殿が市の民俗文化財に指定されている。武田晴信、勝頼の判物・高札(禁制)が残る。また徳川家康、家光による朱印状、四奉行による黒印証文写が残っている。



7 若宮神社

ワカミヤジンジャ

祭神は菅田別命(オムタワケノミコト)。本殿は一間社流造瓦葺。神護景雲2年に創立。武田三郎義清により武運祈願して社地の寄付を受けている。



11 真乗寺

シンジョウジ

山号は無量山。臨済宗で聖応寺末。本尊は十一面観世音菩薩。開山は向岳寺33世法孫洗林和尚。



4 鉾衝神社

ホコタテジンジャ

仁徳天皇四年に勧請したと伝わる。甲斐の20ある延喜式内社の1つ。祭神は天鈿女命(アノウズメノミコト)。米倉氏が神主を勤め、家光、綱吉、吉宗以下家茂まで代々の徳川將軍から御朱印状を受けている。



8 石尊社

セキンソンジャ

祭神は日本武尊(ヤマトタケルノミコト)。1間四方の堂中に石尊神を祀っている。石尊は神奈川県伊勢原市の大山(雨降山アフリヤマ)の山頂にある霊石(石尊大権現)を勧請したもの。大山は中世以降に修験の場として武士の崇敬を集めたが、石尊神は雨乞いの神として評判を呼び、江戸時代後期以降に各地に講が作られ、また勧請された。



12 光照寺

コウショウジ

山号は東岳山。曹洞宗で竜安寺末。本尊は薬師如来。開山は法孫宗伝和尚。

